

真珠のピアス

Broken heart 最後の夜明け
彼のベッドの下に片方捨てた
Ah...真珠のピアス

肩にアゴをのせて耳元でささやくわ
私はずっと変わらない
背中にまわす指の力とはうらはらな
あなたの表情が見たい
もうすぐかわいいあの女と
引越しするとき気づくでしょう

Broken heart 最後のジェラシー
そっとベッドの下に片方捨てた
Ah...真珠のピアス

古ぼけた広告でヒコーキを折ってみる
高台の部屋の案内
いつか住もうと云って微笑んだあの夢へ
せめてヒラリと飛んでゆけ
どこかで半分失くしたら
役には立たないものがある

Broken heart それはあのとき
蒼い心の海にひとつぶ投げた
Ah...真珠のピアス

Broken heart 最後の夜明け
Broken heart 最後のジェラシー

Broken heart 最後の夜明け
Broken heart 最後のジェラシー

from「PEARL PIERCE」1982.6.21 ©1982

あの日にかえりたい

泣きながら ちぎった写真を
手のひらに つなげてみるの
悩みなき きのうのほほえみ
わけもなく にくらしいのよ

青春の後ろ姿を
人はみな忘れてしまう
あの頃のわたしに戻って
あなたに会いたい

暮れかかる都会の空を
想い出はさすらってゆく
光る風 草の波間を
かけぬげるわたしが見える

青春の後ろ姿を
人はみな忘れてしまう
あの頃のわたしに戻って
あなたに会いたい

今愛を捨ててしまえば
傷つける人もないけど
少しだけにじんだアドレス
扉にはさんで帰るわあの日

from「YUMING BRAND」1976.6.20
single 1975.10.5 ©1975

海を見ていた午後

あなたを思い出す この店に来るたび
坂を上って きょうもひとり来てしまった
山手のドルフィン は 静かなレストラン
晴れた午後には 遠く三浦岬も見える

ソーダ水の中を 貨物船がとおる
小さなアワも恋のように消えていった

あのとき目の前で 思い切り泣けたら
今頃二人 ここで海を見ていたはず
窓にはほをよせて カモメを追いかける
そんなあなたが 今も見える テーブルごしに

紙ナプキンには インクがにじむから
忘れないでって やっと書いた遠いあの日

from「MISSLIM」1974.10.5 ©1974

中央フリーウェイ

中央フリーウェイ

調布基地を追い越し 山にむかって行けば

黄昏が フロント・グラスを染めて広がる

中央フリーウェイ

片手で持つハンドル 片手で肩を抱いて

愛してるって言ってもきこえない 風が強くて

町の灯が やがてまたたきだす

二人して 流星になったみたい

中央フリーウェイ

右に見える競馬場 左はビール工場

この道は まるで滑走路 夜空に続く

中央フリーウェイ

初めて会った頃は 毎日ドライブしたのに

このころはちょっと冷いね 送りもせずに

町の灯が やがてまたたきだす

二人して 流星になったみたい

中央フリーウェイ

右に見える競馬場 左はビール工場

この道は まるで滑走路 夜空に続く

夜空に続く

夜空に続く

from 「THE 14th MOON」 1976.11.20 ©1976

埠頭を渡る風

青いとばりが 道の果てに続いている

悲しい夜は 私をとなりに乗せて

街の灯りは遠くなびく ほうき星

何もいわずに 私のそばにいて

埠頭を渡る風を見たのは

いつか二人が ただの友達だった日ね

今のあなたは ひとり傷つき

忘れた景色探しに ここへ来たの

もうそれ以上

もうそれ以上

やさしくなんて なくていいのよ

いつでも強がる姿 うそになる

セメント積んだ 倉庫のかげで

ひざをかかえる あなたは急に幼い

だから短い キスをあげるよ

それは失くした 写真にするみたいに

もうそれ以上

もうそれ以上

やさしくなんて なくていいのよ

いつでも強がる姿 好きだから

白いと息が 闇の中へ消えてゆく

ここえる夜は 私をとなりに乗せて

ゆるいカーブで あなたへたおれてみたら

何もきかずに 横顔で笑って

青いとばりが 道の果てに続いている

悲しい夜は 私をとなりに乗せて

街の灯りは遠くなびく ほうき星

何もいわずに 私のそばにいて

from 「流線形'80」 1978.11.5

single 1978.10.5 ©1978



ノーサイド

彼は目を閉じて 枯れた芝生の匂い 深く吸った
長いリーグ戦 しめくるキックは ゴールをそれた
肩を落として 土をはらった
ゆるやかな 冬の日の黄昏に
彼はもう二度と かぐことのない風 深く吸った

何をゴールに決めて
何を犠牲にしたの 誰も知らず
歓声よりも長く
興奮よりも速く 走ろうとしていた あなたを
少しでもわかりたいから
人々がみんな立ち去っても私 ここにいるわ

同じゼッケン 誰かがつけて
また次のシーズンを かけてゆく
人々がみんなあなたを忘れても ここにいるわ
何をゴールに決めて
何を犠牲にしたの 誰も知らず
歓声よりも長く
興奮よりも速く 走ろうとしていた あなたを
少しでもわかりたいから
人々がみんな立ち去っても私 ここにいるわ

from 「NO SIDE」 1984.12.1 ©1984

青春のリグレット

笑って話せるね
そのうちって握手した
彼のシャツの色がまぎれた人混み
パスは煙り残し
小さく咳こんだら
目の前が滲んだ黄昏

あなたが本気で見た夢を
はぐらかしたのが苦しいの
私を許さないで 憎んでも覚えてて
今では痛みだけが真心のシルエット

ほんの三月前は
指からめた交差点
今も横を歩く気がする

夏のバカンスを胸に秘め
普通に結婚してゆくの
私を許さないで 憎んでも覚えてて
今でもあなただけが青春のリグレット

私を許さないで 憎んでも覚えてて
今では痛みだけが真心のシルエット

笑って話せるの
それはなんて哀しい
だってせいっぱい愛した あなたを愛した

from 「DA・DI・DA」 1985.11.30 ©1985

BLIZZARD

Blizzard, Oh! Blizzard 包め世界を
尾根も谷間も白く煙らせ
激しく舞い翔ぶ妖精たちが
前をゆくあなたの姿かき消す
ストックにつけた鈴の音だけが
二人をみちびくの 音の無い国
Blizzard, Oh! Blizzard 閉ざせ二人を
流れる距離と時間を消して

ふもとで会おうとスタートきった
かならずはぐれずについてゆけるわ
ふいに見失う心細さが
あなたへの想いをつのらせるから

Blizzard, Oh! Blizzard 逃げ心よ
もっとあなたの近くへゆくわ

軽いバウンド ギャップを跳び越え
ゴーグルの雪 結晶に変わる

Blizzard, Oh! Blizzard 包め世界を
尾根も谷間も白く煙らせ

Blizzard, Oh! Blizzard 閉ざせ二人を
流れる距離と時間を消して

Blizzard, Oh! Blizzard 逃げ心よ
もっとあなたの近くへゆくわ

from 「NO SIDE」 1984.12.1 ©1984

幸せになるために

話すことは 沢山ありすぎるけど
黙って そのなつかしい顔を見せて

やっと忘れた あなたを会わせるなんて
月日は なんて気まぐれなことするの

眠れない夜の中を締めようと走った距離

明日になれば あなたに会える
そう ただそれだけのために
もっと素直に もっとやさしく
もっと強くなろうとして来た

そして二人はなんにもなかったように
もと来た それぞれの道を戻ってく

照らされた朝に染まり あなただけの笑顔見せて

明日になれば あなたのことは
もう 思い出さないでしょう
私にとって あなたにとって
もっと幸せになるために

明日になれば あなたに会える
そう ただそれだけのために
もっと素直に もっとやさしく
もっと強くなろうとして来た

シンデレラ・エクスプレス

ガラスに浮かんだ街の灯に
溶けてついてゆきたい
ため息ついてドアが閉まる
何も云わなくていい 力を下さい
距離に負けぬよう

シンデレラ 今 魔法が
消えるように列車出てくけど
ガラスの靴 片方 彼が持っているの

あなたの街を濡らす雨は
もうじきここまで来る
私は傘をささず帰る
笑顔だけ抱きしめて
出逢えたことをとても感謝して

シンデレラ 今 魔法が
消えるように列車出てくけど
ガラスの靴 片方 彼が持っているの

意地悪なこのテストを
私きっとパスしてみせる
同じ時間生きるの
どんな 遠くなくても

from 「DA・DI・DA」 1985.11.30 ©1985

from 「acacia」 2001.6.6
single 2001.1.11 ©2001



DANG DANG

あなたにふさわしいのは私じゃないって
電話を切ったあとに思い切り泣いたあの日

だんだんとスピードをあげて走っていた
朝焼けの海辺を
DANG DANG と DANG DANG D・DANG と弾丸をぶち込んで
疲れたハートに

彼女は知らないなら友達になるわ
それしかあなたに会うチャンスはないもの今は

だんだんと哀しみよ高く押し寄せて
土用波のように
DANG DANG と DANG DANG D・DANG と派手に砕け散って
きのうをさらって

せまいこの町で顔を合わせ
交す微笑みに胸を痛め
ああ少しづつ ああ少しづつ
何にも感じなくなってゆくのね

だんだんと哀しみよ高く押し寄せて
土用波のように
DANG DANG と DANG DANG D・DANG と派手に砕け散って
きのうをさらって
DANG DANG と DANG DANG D・DANG と弾丸をぶち込んで
疲れたハートに

わき役でいいから

Remember me もうすぐ
通りをスコールがかけて来る時刻
あなたのオフィスからは
今ごろ虹と夕映えが見える

去年は気軽に電話をすれば
すぐ会いに行ける近さだったね
ハネをあげながら曲ったパスは
なつかしい街へ煙って消えるの
ときには 泣きじゃくって
カラリと去ってゆく雨になりたい

……Remember me
ときには 思い出して
夢の中のわき役でいいから

私がもう少し大人だったら
あなたに出逢えはしなかったでしょ
やさしい誓いも つらい言葉も
運命の風が吹いていっただけ
そう ただそれだけ

Remember me もうすぐ
あなたはあの娘と結婚するけれど
ときには思い出して
夢の中のわき役でいいから

from 「水の中のASIAへ」1981.5.21 ©1981

14番目の月

あなたの気持が読みきれないもどかしさ
だから ときめくの
愛の告白をしたら最後 そのとたん
終わりが 見える

um… IWANUGA HANA

その先は言わないで
つぎの夜から 欠ける満月より
14番目の月が いちばん好き

気軽にジョークが とぎれないようにしてね
沈黙がこわい
月影の道で 急に車止めないで
ドキドキするわ

um… YANAGI NI KAZE

なにげなく かわずけど
つぎの夜から 欠ける満月より
14番目の月が いちばん好き

つぎの夜から 欠ける満月より
14番目の月が いちばん好き

from 「THE 14th MOON」1976.11.20 ©1976

かいけ
翳りゆく部屋

窓辺に置いた椅子にもたれ
あなたは夕陽見てた
なげやりな別れの気配を
横顔に漂わせ

二人の言葉はあてもなく
過ぎた日々をさまよう
ふりむけばドアの間隙から
宵闇がしのび込む

どんな運命が愛を遠ざけたの
輝きはもどらない
わたしが今死んでも

ランプを灯せば街は沈み
窓には部屋が映る
冷たい壁に耳をあてて
靴音を追いかけた

どんな運命が愛を遠ざけたの
輝きはもどらない
わたしが今死んでも

from 「YUMING BRAND」 1976.6.20
single 1976.3.5 ©1976

水の影

たとえ異国の白い街でも
風がのどかなとなり町でも
私はたぶん同じ旅人
遠いイマージュ 水面におとす

※時は川

きのうは岸辺
人はみなゴンドラに乗り
いつか離れて
想い出に手をふるの

立ち去るときの肩のあたりに
声にならない言葉きこえた
あなたをもっと憎みたかった
残る孤独を忘れるほどに

よどみない浮世の流れ
とびこめぬ弱さ責めつつ
けれど傷つく
心を持ち続けたい

※(くりかえし)

from 「時のないホテル」 1980.6.21 ©1980